

2025年11月20日（木）

老球の細道 895号

U-12 ウインターカップ会津地区予選観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

世の中は「ウイズ・コロナ」がおさまったが、ここに来て新たなパニック「ウイズ・熊」が始まった。山本リンダではないが「熊（困）っちゃうな!」。特に福島県では会津地区の出没が目立つようである。先週行われたミニバス大会の会場になった河東体育館のある河東地区でも出没情報があり、大会開催が危ぶまれたが杞憂に終わり、やれやれ。

最近孫たちがバスケットに興味を示し、練習も頑張っているので、試合や大会を観戦に出かけるのが楽しみである。今回も我が家では両親のみならず、爺婆まで山に芝刈り、川に洗濯に行かず（熊が出るので）一家総動員で観戦、応援に出かけた。

孫息子は今大会ユニフォームをもらえなくてがっかりしていたが、次の大会を目指して応援をがんばるよう両親が励ましていた。私も中学、高校時代ユニフォームがもらえなくて悔しい思いを経験しているので、孫がむずさなくて（会津弁でかわいそう）しかたがなかった。

孫娘のほうは5年生になり、常時ユニフォームをもらえるようになったが、練習してきたことが試合でさっぱり発揮できない状態がずっと続いている。今大会も試合に出かける前に、父親から「ガツガツ行け」というアドバイスをもらったのだが、いざ試合になると「カスカス」弱気のプレイ満載で終わってしまった。コートサイドで見ていた私は、かつてのコーチ時代を思い出し、わが孫娘に激を入れようと思ったが「インテグリティ」の一文字が頭をよぎり冷静になった。

さて、大会の方であるが、いつものようにスキルのレベルは上がっているが、上位と下位チームのレベル差は大きい。高校生レベルのスキルを持っている選手がいるかと思えば、すぐに相手にボールを取られてしまう選手、チームもあり、同じバスケットゼロからスタートした小学生でありながら、なぜこんなに差がつくのか不思議であった。

男子の「磐梯ブラックダイヤモンド」はオールコート攻防に抜群の力を発揮し、決勝戦まで断トツの実力で優勝した。県大会では久しぶりに会津地区から優勝を狙えるチームが出現した。女子では「日新ミニバス」が「猪苗代ミニバス」を接戦の末破り、サマーカップのリベンジを果たした。両チームともスピード、ディフェンスの粘りに優れ、県大会でも上位入賞が期待されるのではないだろうか。

閉会式の講評では、県大会に向けてディフェンスの強化について話した。ディフェンスの肝は「足、手、声+コンタクト」である。特にゲームの中ではドリブルに対するコースチェック（手、足、コンタクト）、ボックスアウトからのディフェンスリバウンド（コンタクト）、ドライブに対するチームヘルプ（声）は多くのチームで不徹底である。この三つが徹底されないと、相手チームの能力のある選手にワンマンプレイでやられてしまう。

ミニバスの大会に出かけるといつも駐車場が満車で駐車場を探すのが一苦勞である。多くの保護者、ファンが駆けつける。この熱気をなんとか高校までつなげてほしい。